



敬愛する支援者の皆様

この手紙が届くのは桜の季節も終わったころでしょう。しかし、まだまだ美しい花の季節はつづいています。新しいことの始まりを体験している多くの方もあるでしょう。みな

DMI フィリピン訪問

フィリピン DMI 交流の旅の計画をご案内していましたが、3夫婦と男女それぞれ2名の総勢10名で行ってきました。特に2名のろう者の方が同行してくださったことを嬉しく思いました。このおふたりは開発途上国のろう者をずっと誠実に支援してくださっています。ろう者がろう者を支援したり、健聴者がろう者を支援するのを見られるのは、すばらしいことです。

毎月支援している子どもたちに会えたのは祝福でした。私たちはみんなにペンや歯ブラシ、お菓子などをおみやげに持っていきました。また学校が使えるものも持っていきました。また各学校に相当な金額の支援献金を届けることもできました。癌で他界された林様のご遺族から、故人の遺言ということで寄付されたお金もあずかり、ふたつの学校に分けて届けることもできました。神に感謝します。

この旅行に参加されたふたりの女性のレポートをお送りします。どうぞお読みください。祝福されることと思います。今後、他の国の DMI 交流の旅も計画したいと願っています。

一度、里子に逢いたいという願いをずっと持っていましたので、年齢や健康のことを考えると最後のチャンスと思い、フィリピン訪問の申し込みをしました。



日本に里親がいる子どもたち

レガスピとダバオの学校に行き、耳の聞こえない大勢の子ども達を目にした時、「ああ、祈っていた子どもたち……」なんとも形容しがたい感動を覚えました。想像を超えた明るい人懐っこい笑顔に圧倒され、心が震えて泣いていました。

ダバオで里子に会いました。子どもは恥ずかしそうにしていますが、学校の先生のお話によ



吉井さんと里子のハーニ

ると、こんなに嬉しそうな笑顔を見たことがないと言ってくさき、「ああ来てよかった」と思いました。手話通訳でお話もできたし、帰りは空港まで見送りに来てく

れました。帰国後は祈りの時、フィリピンの学校と子どもの顔を思い浮かべながら祈っています。

多くの子は親から親戚からのけ者にされて、この学校に連れて来られたであろうことを思って、DMIの働きの重要さ、尊さを思いました。フィリピンに行くまでは、サポートしている子が成長したらそれで終わり、と思っていたのです。しかし、実際に現地を訪れ、子ども達、先生方、また施設など見学して思ったことは、この働きを継続して支援しなければいけない、DMIの働きは神様から託された尊い、尊い働きであるということです。単に衣食住教育に留まらず、そこでは聖書に基づいた教育がなされているのを見ました。耳の聞こえない子どもたちが捨てられないで、ここでは受け入れられているのです。愛をいっぱい受けて成長しますように祈ります。彼らが自立し社会に役立つ人間に成長する手助けをしている DMI の働きを、日本の教会とクリスチャンがもっともっと理解して、協力することが必要だと思いました。

京都 吉井典子

今回この旅行に参加して、実際に学校やプロジェクトを訪問した事によって、DMIの働きをより深く知る事ができました。

私は英語も手話もあまりできなかったのです

が、学校の生徒達が集まって色々と話しかけてくれて、短い時間ではありましたが、とても楽しい時間を過ごせました。もっと手話で色々な話がしたいと思いました。

私はリガオとダバオで里子と会う事が出来ました。実際に会って話すことでより親近感が沸きました。彼らの元気な姿を見る事が出来て良かったです。

初めてのフィリピンという事もあり、印象に残っている事はたくさんあるのですが、中でも強く印象に残っているのは、ダバオの学校で生徒が賛美した「主の祈り」です。この時DMIの働きの中心に神様がいて下さっていると実感しました。本当に素晴らしい賛美で感動しました。

旅の途中、台風で飛行機が飛ばなくなるというアクシデントもありましたが、全員の安全と健康が守られ、6日間無事に過ごせてよかったです。この6日間あっという間でしたが、本当に楽しかったです。また機会があれば行きたいです。

これからも、DMIの働きとスタッフと学校の生徒のために祈り、支援を続けていこうと思います。

談議伸子

ふとしたことから、私は3月31日にソウルに滞在することになりました。そのおかげでDMIが創立した江華インマヌエルろう教会の創立30周年記念礼拝に参加することができました。この教会は自前の会



ダバオの学生にプレゼントを渡している
談議さん(左)と他のスポンサー

堂があります。

牧師は李ドゥー

ヒョン師で、夫人は山形県出身の長沢久美子宣教師です。長沢宣教師の出身教会の伊藤一壽牧師が、特別講師として招かれ、みことばを取り次ぎました。教会堂は主にろう者でいっぱいでしたが、地域の健聴の牧師や他の人たちも記念礼拝に参加しました。牧師夫妻は30年間の牧会で疲れています。どうかふたりのためにお祈りください。夫妻には3人の息子がいますが、末の息子は宣教師に召されていると信じて神学大学に入学しました。

2012年の会計報告を同封いたします。主が豊かに備えてくださったことを感謝します。しかし、フィリピン滞在中、日本からの支援はDMIの働きに必要な費用のわずか1パーセントであると分かって愕然としました。もう少し何とかすることができるとは思いません。世界には、ろう者だというだけで無価値な人間であるかのように扱われる国があります。このような国にいるろう者たちに教育の機会を提供するという素晴らしい働きがあります。スポンサーのみなさまには大変感謝しています。これは、神の愛と人の愛を表していくひとつの方法です。趣旨に同意し支援して下さる方を多数見つけることができますように、どうかご協力ください。よろしくお願いいたします。

Alayne Madory

DMI 国際ろう者支援会 日本
理事長 アレイン・マドレ



30周年記念礼拝：

(上) ケーキでお祝い

(右) 説教している伊藤先生と手話通訳している長沢さん



DMI 国際ニュースレター 3月号からのハイライト



日本とオーストラリアから支援者のグループがフィリピンのDMIを訪問してくださり、祝福されました。オーストラリアのグループは学校施設の塗装などをしてくださり、学校のみなを励ましてくださいました。日本からのグループは、自分たちがスポンサーをしている子どもたちに会い、フィリピンのDMIの働きについて理解を深めました。ジャック・マーシャル牧師はダバオの祝会で神さまのメッセージを語りました。2月は通常、良い天気ですが、どういわけかこのときは雨ばかりで、飛行機の到着も遅れました。観光には不向きでしたが、一行はフィリピンの人の温かいもてなしの精神を体験し、自分たちが支援してきている子どもに会うことができたので、大変ながらも価値ある数日でした。両グループの支援と励ましを感謝します。

ここでは、いつも何かが起こり、試練や困難に見舞われてばかりです。以前に起こったことの片付けや、新たな問題に対処するために、DMIの学校の関係者には、私たちの祈りと励ましが常に必要です。

祈りましょう

チュン・サン・マウはカレイから来たろうの少年です。彼の目は、だんだん見えなくなって、学校の授業がほとんどできなくなりました。私が行ったとき、彼をバスに乗せて、ヤンゴンの専門医に見せました。彼はカレイから一度も出たことがありません。そんな彼を連れて歩くのは楽しいことでした。彼にとって、大都市ヤンゴンは驚きでした。3階建より高いビルを見たことはありません。私がクレジットカードをATMに入れてお金が出てきたときの驚いた表情といたら。初めて口にしたアイスクリームは美味しかったようですが、コカコーラはとんでもないことでした。残念なことに、彼の目の病気はアッシャー症候群で徐々に悪化するだろうとのことでした。治療法はありません。チュン・サン・マウ君のためにお祈りください。また、このようなケー



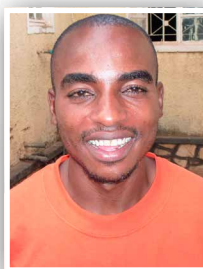
ス始めて扱う学校のスタッフのためにもお祈りください。

ルツ・ジヒアはケニアからタンザニアに派遣されたDMI宣教師のダニエルとジェーンの娘です。彼女はウガンダの聖書学校の生徒ですが、勉強の上に色々な奉仕をしていて、まるで学校職員のようなです。タンザニアの両親の家からケニアを

通ってウガンダの学校に帰る途中、乗っていたバスがケニアの国内で事故を起こして2名が亡くなりました。彼女も足に怪我をしてキスムの病院に入院しました。キスムはルオ部族の地域です。ルツはキクユ部族です。ちょうど選挙の時期で、このふたつの部族には緊張関係があったので、父のダニエルは心配していました。前回の選挙のときは武力抗争に発展したからです。けれどもルツは退院して無事にウガンダに帰りました。ところが、後日の検査で、大腿骨を骨折していることが分かりました。今、痛みがひどく治療が必要です。彼女のためにお祈りください。また、医療費の援助をしたいと思われる方は、お知らせください。今現在、ケニアを通過してウガンダに行くことは可能なので、ダニエルは娘のところに行くつもりです。



パピ・ムテベルワはコンゴルセット聖書学校の生徒です。彼はDMIのブテンボ教会を訪問してコンゴのゴメへ帰るところでした。彼の乗っていたバスが強盗に教われ銃撃されました。亡くなった人もあります。パピの持ち物は、パスポートや電話、カメラ、衣類などすべてを奪われました。学校は彼をウガンダに連れ戻すためにひと月分の予算のほとんどを使いました。無理もないことですが、彼はショックで心の病気になりました。精神科の治療が必要です。どうか治療の必要が満たされますようにお祈りください。



シリアのネダルとファディを今さら紹介する必要はないでしょう。昨今、シリアのニュースを聞くことが増えました。状況はどんどん悪くなっていて、彼らの将来が心配されます。DMIシリアの働きがどうなってしまうのか分かりません。爆撃は益々ひどくなりダマスカスの彼らの家のすぐ外の道も爆撃されました。どうか彼らのため、またシリアの働きのためにお祈りください。

プロジェクト

ろう者が働いて収入を得、DMIの働きも支えられるようにという目的で、さまざまなプロジェクトが立ち上げられています。一定の成果を上げているものもありますが、今まさに産声をあげようというもの、まだ計画を練ったり、夢を見たりという段階のものもあります。成功しているプロジェクトは、養豚、精米、稲作、中国のチーズケーキ店があります。

プロジェクトの現状

リガオのビンゲ・メデスは、ろう者のミニビジネスの起業を助けて成功しています。また、ろう者の就職支援もしています。彼女が与えられたことは、私たちの祈りに対する神の応答です。私たちが訪問したとき、ビンゲはろう者たちに仕事に必要な知識である経理を教えていました。



時計周り（左から）
クリスティ、ジャック、
ダネリーン、ドナ、ジョン、カレン



ゴム園 台風などの困難がありましたが、ついにゴムの収穫ができました。一週間ほどで最初の出荷が可能になります。ゴムの樹液が容器を満たしていくのを見ると興奮させられます。将来、ゴム園の収益が、DMIのミンダナオ島の働きの多くを支える収入になることを願っています。

カガヤン・デ・オロのろう者は淡水パールのアクセサリーを作っています。パールを仕入れて色々なデザインのネックレスやイヤリング、ブレスレットなどを制作しています。このプロジェクトは寄宿舎の子どもの食費や雑費の助けになります。このアクセサリーを購入したい方はお知らせください。



マンゴ園 カナダの投資家がネグロスのザンボアンガイタに4.7ヘクタールのマンゴ園を購入する道備えをしてくれています。これは大きなマンゴ園ですから、実現すれば多くのろう者に就労の機会が与えられるでしょう。収穫されたひとつひとつの果実



は、紙に包まなくてはなりません。1本の木には何百というマンゴが実っています。思った以上の仕事があります。ダグ・クルトンがこのプロジェクトのリーダーです。19ページの企画書があります。この価値ある事業の支援に関心のある方は、どうぞお知らせください。

夢段階のプロジェクト

神のみこころならば、バコロドに寄宿舎と集会所に使う家を買いたいと願っています。約6万ドルの予約献金がありますから、売り手との交渉が成立次第、この家を購入したいと願っています。バコロドの子どもたちやキムとアルバートにとって、何という祝福になるでしょう。



うずらプロジェクト サマルにうずらの卵と肉を生産する事業をスタートさせるために約2千ドルが必要です。企画書がありますので、支援に関心のある方はお知らせください。

浄水 カガヤン・デ・オロ地域を襲った台風の被害の影響で人々は飲料水を遠くで購入し、長い道のりを運ばなくてはなりません。私たちの寄宿舎のある村には飲み水がありません。飲料水を供給する事業は長期的なプロジェクトです。ろう者に収益と就労の機会を提供できます。約7千ドルが必要です。



ケニアのイマヌエル学校のワゴン車 状態の良い中古のワゴン車を1万1千ドルで購入できるチャンスが短期間ですが、あります。

中国の下関という町の近くに**コーヒーショップ**を開くことを願って場所を探しています。現在の場所は旧市内にあります。新市内から遠くはないのですが、それでも新市内に店舗を構えたいと思います。これもまた、ろう者に就労の機会を与え、同時にDMIの中国の働きを支えるために、有益なプロジェクトです。

上記のプロジェクトの支援に関心のある方は、どうぞお知らせください。詳細な情報をお伝えいたします。

世界中のDMIの働きへの支援と激励を感謝しています。

ネヴィルとリル・ミューア

DMI JAPAN Spring 2013

- English -

Dear friends and supporters of DMI,

Spring has come and by the time you get this the cherry blossoms will have come and gone, but we can still enjoy all the other beautiful spring flowers. It is time of new beginnings for so many people and we trust that for each one of you, the coming year will be a year of blessings and joy.

DMI Philippines Visit

For about a year I have been mentioning the planned visit in my newsletters. Now the visit is history. We were a group of 10, three couples, two ladies and two men. We were especially pleased to have the two deaf men join our group. These two men faithfully support the work among the deaf in underprivileged countries. Wonderful to see deaf helping deaf, as well as hearing people helping the deaf.

It was such a blessing to meet the children we send support to each month. As a group we took every child a pen and a toothbrush, plus some candy, and then we took extra things for the schools to use. Also, thanks to the support of people in Japan, and money donated by those visiting the schools, we were able to give a substantial monetary gift to each school. Then there was a special gift for DMI schools as a dying wish from a man who passed away with cancer. We were able to give half to each school we visited, in memory of Mr. Yuichi Hayashi. Thanks be to God.

I am sending short reports written by the two ladies who joined the tour and I know you will enjoy reading them. We hope we will be able to take other supporters to see the work of DMI in other countries in the future.

(see Japanese reports - not translated into English)

On March 31st I unexpectedly found myself in Seoul, and it was a real blessing to be able to attend the 30th anniversary celebrations of the Kangwha Immanuel Deaf Church started by DMI. They have their own very nice building and the pastor is Rev. Doo Hyong Lee and his wife Kumiko Nagasawa from Yamagata, Japan. The pastor of Kumiko's church in Yamagata, Rev. Kazutoshi Ito came to speak on this occasion. The Church was full with mainly deaf people but also a few hearing pastors from local churches and others. Both Doo Hyong and Kumiko are tired after 30 years of pastoring, so please remember them in your prayers. They have 3 sons and their youngest, Yohanne, has just commenced at a Baptist seminary, believing God is calling him to be a missionary.

We are enclosing the financial statement for the year 2012 and we praise God for His provision, but when we were in the Philippines we were shocked to find out that Japan only contributes about 1% of the total amount need to keep the work of DMI going. Surely we can do better than this! We are thankful for everyone who is a supporter, but please help us find others to join in this wonderful opportunity to give an education to deaf children in countries where they are thought as having no value because they are deaf. This is one way of showing them love, love from fellow human beings, and love from God.

Warmest greetings,

Alayne Madore
Chairperson, Japan DMI Board

Excerpts from DMI International Newsletter, March 2013

We have been blessed again by teams visiting our work in the **Philippines**. One came from Australia and another from Japan. The team from Australia did practical work like lots of painting, as well as encouraging everyone at the school. The team from Japan visited their sponsored children and updated their knowledge of the work in the Philippines. Rev. Jack Marshall also preached and spoke at the celebrations in Davao. February is usually a good month to visit but, something went wrong and it rained all the time - even delaying flights. It was too wet for sightseeing but, they all experienced the warmth of Filipino hospitality and were able to visit the kids they had been sponsoring, so well worth the effort. Thanks to both teams for their contribution and encouragement.

There is always something going wrong and some of our folk are going through a lot of trials and pressures. They really need our prayers, support and encouragement to cope with current and past issues:

People Needing Prayer

Cung Than Maw is one of our young deaf lads from **Kalay**. It was discovered that he has been gradually losing his eye sight to the point that now, he can hardly cope with anything in class. During our recent visit he accompanied us back to Yangon on the bus to visit the specialist. It was such fun having him with us as he had never been out of Kalay before and the big city of Yangon was a marvel to him. He saw for the first time, buildings more than 3 stories tall and the look of amazement on his face was priceless when I put my credit card into a machine and money came out! For the first time he ate ice cream, which went down well but, Coke was just too much for him. Unfortunately nothing can be done for his sight. He has Ushers syndrome and will progressively get worse. Please pray that he will be able to cope well and for our staff who have not handled this type of issue before.

Ruth Njihia is the daughter of Daniel & Jane, our missionaries to Tanzania, from Kenya. She

is studying in our Bible School in Uganda but, is actually almost a staff member as she is called on to do many other tasks. On her way back to Uganda from visiting her parents in Tanzania, the bus in which she was travelling overturned (in **Kenya**) killing two passengers and injuring her leg. She was admitted into hospital in Kisumu, which is in a Luo tribal area. Ruth is a Kikuyu. It was election time and tension between the two tribes was high. Daniel was so concerned to see her out of Kisumu and safely in Uganda, for fear of tribal tensions overflowing into violence as is what happened last election time. Ruth was released from hospital and made it safely back to Uganda. However, on further examination it was discovered that she had broken her thigh bone! She is now in much discomfort and pain and needs further treatment. Please pray for Ruth and if you would like to help with some of her medical expenses, please notify us. Daniel is hoping to visit her now that travel through Kenya is possible.

Papy Muteberwa, one of our Congolese School students was travelling back to Goma, **Congo** from a visit to our Church in Butembo. The bus he was travelling in was attacked by rebels; people were shot, some hacked to death and robbed. He was robbed of everything he had including his passport, clothes, phone and camera. The Bible School used most of their budget for the month to rescue him and get him back to Uganda. He is understandably traumatised, needs counselling and psychological help as he can't get the incident out of his mind. Please pray for Papy and for ways and means to help him.

Nedal and Fadi in **Syria** need no introduction; Syria has been in the news so much these days. Things are getting tougher and we do not know what the future holds for them, or the work in Syria itself for that matter. Things are getting closer and a bombing in the street just outside Nedal's family home (Damascus) brought the conflict frighteningly close. Please continue to pray for them, their families and the work in Syria.

Projects

With the purpose in mind of providing work for deaf people and a source of income to help sustain our work in areas where we are involved, various projects have been undertaken in order to reach this goal. Some have been producing for some time now; others are just beginning and others are still in the dream/planning stage. Already successful projects have been the pigs, rice mill, rice lands and the cheese-cake coffee shop in China.

Project Realities:

Bing Medes in **Ligao** has been doing a fantastic job helping deaf people set up cottage industries and mini businesses in the area, as well as helping the deaf find jobs. She is a real answer to prayer and we are so thankful. She was teaching some of the deaf simple accounting when we were there. This a necessity when running your own business; like these micro entrepreneurs - clockwise L-R: Christie, Jack, Daneline, Donna, Jonas and Karen. (*see photo collage in Japanese newsletter*)

Rubber - In spite of typhoons and other difficulties the rubber is finally being harvested and our first sales will be in a week or so. It was exciting to see the rubber latex filling the cups, which we hope will eventually be a great source of income to help the work in **Mindanao**. Well... exciting if you consider a white liquid slowly dripping into a cup exciting! The prospects however, are exciting. After the last typhoon things were set back somewhat but, are now being overcome. The road to the plantation is still a bit of a challenge but, it is manageable at this stage.

Pearls - Some of our deaf folk in **Cagayan De Oro** are making fresh water pearl jewellery. We are sourcing a supply of the pearls and the deaf are using them to make necklaces, earrings and bracelets of various designs. This source of income is helping feed the kids in the dorm and other ministry expenses. We have a supply of the jewellery here in the office if your are interested to purchase.

Mangoes - An investor in Canada has made it possible to purchase a 4.7 hectare (11.6 acres) mango plantation in Zamboanguita in **Negros**. This is a huge undertaking, which will provide

employment opportunities for many deaf people as it necessitates a large amount of work to attend the large number of trees. Each piece of fruit has to be wrapped in paper as it ripens and there are hundreds of mangoes in each tree. It certainly consists of more work than imagined. Doug Clutton is heading up this project. A 19-page proposal is available; please contact us if you are interested in contributing to this worthwhile venture.

Project Dreams:

Bacolod Dorm - God willing we are hoping to purchase the house used for our dorm and centre in Bacolod. Already about \$60,000 has been promised so as soon as we get a final negotiated price we can hopefully purchase this place. What a blessing that will be to the kids and Albert and Kim in Bacolod.

Quails - About \$2,000 is required to set up a quail egg and meat producing business in **Samar**. A proposal is available for this also.

Fresh Water - The amount of typhoon damage to areas of **Cagayan de Oro**, has necessitated people having to purchase drinking water and carry it long distances to their homes. In the village/subdivision where our dorm and centre are situated, no running, drinking water is available. The introduction of a drinking water supply business would be a long term project; it would provide income and further employment opportunities for the deaf. About \$7,000 is needed for this project.

Coffee Shop, China - We are currently looking for a suitable place to open a coffee shop in the nearby city of Xiaguan. The current one is in the old town of Dali not far away but, the new city does not sport such a facility. Our team there are searching for a suitable place. Once again this project will help support the work in China and provide employment opportunities for the deaf.

If you are interested in helping with any of these projects please contact us for more information.

Thank you again for your support and encouragement towards our work among the deaf worldwide.

Neville and Lill Muir